

- ② with コロナ時代の「小さな親切」運動
今、私たちにできること
国際医療福祉大学医学部 公衆衛生学教授 和田耕治
- ⑥ 第45回 作文コンクール
作文にみる“コロナ禍の親切”とは
・内閣総理大臣賞作品／表彰レポート
・入賞・入選者一覧
- ⑨ 一人ひとりが運動の原動力
令和2年度運動功労者（内閣官房長官賞）紹介
- ⑩ ピンチをチャンスにかえた長崎支部の
「小さな親切」実行章贈呈
- ⑪ 湿度をコントロールして冬を乗り切ろう
- ⑫ (公財)JKA 補助事業
オリジナル紙芝居で郷土を愛する心をはぐくむ
- ⑬ コラム「これってどうなの?」／のんちゃんのおすすめ紹介
- ⑭ Information & HIROBA



表紙写真

- ①：作文コンクールに揃って上位入賞した島田兄妹（6頁）
- ②：昨年12月に設置された医療従事者へ感謝を伝えるためのイルミネーション（東京駅）
- ③：小児がん患者を応援するイベントで実行章贈呈（15頁）
- ④：ホテル椿山荘内にある恵比寿様（東京都）
- ⑤：伊勢湾への入り口にある絶海の離島「神島」に伝わる獅子舞（撮影 北出正之）
- ⑥：ラテアートが有名なカフェにて（東京都）

「小さな親切」誌は、季刊発行

春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2021年1月25日発行 通巻521号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL. 03-3263-2866 FAX. 03-3263-3838
<https://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社

© 無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。

デザイン・DTP 有限会社リトルフット

イラスト P13：安彦麻理絵



仰げば尊し……純愛の師

代表
鈴木恒夫

「え 一つ、先生がお亡くなり……。100才でいらっしやった……。」

一昨年の秋、郵送されてきた出身高校の同窓会誌に、女性の恩師の追悼特集が載っていて、同期の卒業生である私と妻は深い悲しみに、しばらくは声も出なかった。

その先生のお名前は笠松稲子先生。1950（昭和25）年に、母校・神奈川県立横浜翠嵐高校に国語教師として赴任された東京女高師（東京女子高等師範学校／現：お茶の水女子大）卒の先生は、31年間にわたって国語を教え続けてくださった名物教師だった。私たち夫婦が現代文のみならず、古い時代の国文学や外国文学までをお教えいただいたのは、もう60年前後の昔のことだが、その頃の私が「将来は必ず新聞記者になる」との思いを強めたのには、先生の含蓄あふれる文章についてのお教えがあった。

独 身を通された先生。ご本人がそのことを口にされたという記憶は私にはないが、学生時代と卒業直後の頃の東京大学卒の日本軍将校との秘話が心に残っている。将校は戦死、先生はその純粋な思いに、自らのその後の人生を懸けた、と。弟さんも戦死。悲しみの深さは想像を絶するものがあったと思うものの、教壇での先生は小柄な体を軽快に動かし、明るく素顔とわかり易い言葉でお教えくださった。

先生のご自宅は、東急電鉄・東横線の東白楽駅の東側の山の中腹にあり、私たち夫婦も何度かご自

宅をお訪ねしたことがある。最後に先生にお会いできたのは、5年前に行われた母校の創立100周年記念式典の時。先生は、車いすに乗って来場してくださり、ご長寿のお姿に万雷の拍手が贈られた。私たちが在学中の頃、生徒は恩知らずというほかはないが、先生方にあだ名をつけ、水泳部の監督だった先生には“イルカ”、地方なまりが年を取っても直らず、例えば三角形の一边を“エッペン”と発音し、それがあだ名になった先生などなど。しかし、笠松先生だけは何ひとつあだ名のつかない、ただ一人の女性教師だった。

東 横線は私どもの通学電車。東京寄りの駅から東白楽駅を通って行く時、当時はビルも間に立っておらず、先生のご自宅が車窓から見えたものだった。「今でも東白楽駅を通る前後に、必ずといっていいほど“先生、お元気ですか”と、胸の内でご挨拶してたよ」と妻に言うと、妻もまた「私だって一人の時は必ず胸の内でご挨拶してたわ」と。

先生、ほんとうにありがとうございました。それにいたしましても、お教えいただいた文章書きなのに、相変わらず下手くその極み。申し訳ございません。なにとぞお許しください。

そして、先生。天国で、あの方とご一緒になられたことでしょう。あらためまして、先生の純愛の心に、教え子の一人として深い尊敬の思いをお捧げ申し上げます。